



平和への道

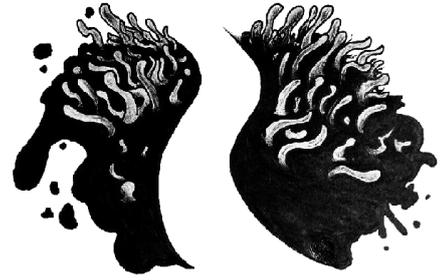
石原艶子

○わたしたち一人ひとりの生き様を生きた教科書にしよう。誰もがそこから学びとることが出来るように。(ガンジー)

○暴力と虚偽で目先の利を守る時代は自滅しようとしている。決して希望なき時代ではない。大地を離れた人為の世相に欺かれず、恵を見出す努力が必要な時なのだ。それは生存をかけた無限のフロンティアでもある。(中村哲)

○脱皮しない蛇は滅びる(ニーチェ)

○恐怖と欲望の安全保障を廃棄しよう(キ政連：キリスト者政治連盟)



イラスト：大城旋律(孫)

☆平和への道・・・あなたには平和への道が見えますか。“そんな道はどこを捜しても見えない、と多くの人は言うでしょう。でも見えなくてもそれは確かにあるのです。私はそう信じます。平和は私たち一人ひとりの心の内に豊かにあるのです。その内なる平和が外に溢れて平和が生れるのです。そのような視点で人間を見る時に、私たちはあそこにもここにもと確かな平和を発見します。それは、命をかけて他者のために尽くす人、真実を伝えるために命をかけるジャーナリスト、戦地で命がけで子供達を守る医療従事者、死の床にあってもあの人この人のことを思い祈り続ける人、中村哲さんのように現地の人々の生きる道を拓く人、などなど豊かな愛の実体が見えてきます。人間の内に宿されている命の輝きを見ることで、絶望はいつしか希望へと変えられてゆくのです!!

聖書は「愛は不義を喜ばず真実を喜ぶ。愛は決して滅びない」と語ります。人間はこのような愛に生きることが出来る命ある存在なのです。そんな愛を自分の内にそして外に見い出した人は幸いです。愛は真の力を持った実体であって平和をつくる力なのです。あなたの平和運動はこのような愛に根ざしていますか、それとも自己満足、自分のためのものですか、平和と愛のためと言って暴力を使いますか、こんな問いの前に立たされている自分がいます。友人が「人類は平和の道に進めるのでしょうか」と問いかけました。私は思わず「絶望的ですね」と答えてしまいました。然し絶望の向こうに私は確かに“人間は愛を失ってはいない、愛は生きている、”という確信が湧き上がってきたのです。この希望をこそ持つことが大切なのだと思います。愛は希望を生むのです。先日テレビの番組の中である方が「愛は理想を越えて奇跡を起こす」と語られた言葉に感動しました。愛にはそんな力があるのです。昔も今も愛するが故に命を失った人々が沢山います。そのような人達は死んでも尚、私たちに語りかけ導き励まして下さっています。空しい死ではなく、人類を愛したその人たちの生き様が未来を支えているのです。そう思うと今を生きている私たち一人ひとりもまた与えられた場所でささやかであっても自分らしく、平和をつくる愛を持ちたいと心から願わずにはおれません。闇の中にいる世界の指導者たちが、こちらの世界、愛と光の世界に来て真の人間性を取り戻してくれますように、もっともっと愛という力ある希望の光を信じていきましょう。ブーチンさん、ゼレンスキーさん、ネタニヤフさん、バイデンさんなどがどうか平和をつくる人間になりますように、彼等に取り付いている悪の霊が取り払われますように祈る毎日です。

6月23日 沖縄慰霊の日

巡って来た79年目のこの日、私たちは糸満市米須にある魂魄の塔(不明戦死者の遺骨が眠る)前の広場にてもたれた第41回国際反戦沖縄集會に参加しました。毎年この集會を大切に思い参加してきました

が、コロナ前から見たら参加者は半分になっているように感じました。高齢者が多い中、近い将来の自分とも重なり合い、今後加速する現実不安を覚えつつ、若い人達を巻き込んでの新たな取り組みが必要になると感じました。集会ではミニコンサート、平和スピーチ、韓国の市民運動の方々、世界中の戦争に反対する市民の方達などからの熱いメッセージなど。私たちは普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会の一員として共に祈りを込めてゴスペルを3曲歌いました。慰霊の日には「絶対に戦争はしない」という新たな平和への決意をする日でもあります。79年という時は戦争の記憶を消し去っていきます。そんな中、今、新しい戦前とも言われる戦争に駆り立てる政治家の言葉と軍事力拡大の一途なる戦争準備が急速に進み、沖縄は苦難の時を迎えています。そんな中、玉城デニー知事さんの平和宣言の中での言葉をかみしめました。「一人ひとりの思いや行動はたとえ微力でも確実に世の中を変えていく力がある。今こそ私たち一人ひとりに求められているのは不条理な現状を諦めるのではなく、微力でも声を上げ立ち上がる勇気そして行動することです。違いを認め対話と外交により、恒久平和の確立に向け共に絶え間ない努力を続けて参りましょう。」デニー知事さんの言葉に励まされ、いつも言い続けてきた「私たちは微力でも無力ではない」ともう一度心に強く決意し、正念場を迎えるデニー知事さんと共にありたいと強く思いました。

戦う覚悟なんていらぬ。いるのは戦わない覚悟である。

晴れた日には台湾の山並みが見える日本最西端の与那国島は8年前自衛隊誘致を受け入れました。多くの住民は「自衛隊が来たら島の人口が増えて島は活性化し発展する」と考えて賛成したのです。何と想像力のない単純思考かと思いますが、平和ボケした住民には自衛隊は軍隊であることすら分からなかったのです。まさかミサイルを搭載した戦車が公道を公然と走り、日米軍事訓練が行われるとは夢にも思わなかったのでしょうか。こうして島は完全に軍事要塞化されてしまいました。島を去る人もあり、台湾との交流を豊かにした自立型経済を企画していた夢の構想は吹っ飛んでしまいました。賛成運動をした多くの住民も今となって後悔していますが、後悔先に立たずです。もしもあの時、町長と住民が総掛かりで命を張って反対していたら、与那国島の軍事要塞化は実現しなかったと思います。自衛隊誘致を推進してきた極右の町長は改憲集会において「一戦を交える覚悟が必要である」と発言し、住民からの抗議の声が上がりました。それに対し町長は「日本は将来中国の属国に甘んじるのか、台湾という日本の生命線を死守できるのかという瀬戸際にある。このような国家存亡の危機にひんしては超法規的措置を取ってでも国家の命運を賭け、全国民がいつでも日本国の平和を脅かす国家に対しては一戦を交える覚悟が問われているのではないか。」と発言しました。一瞬時が80年前に戻ったのかと!! 新たな戦前は本当に始まっているのだと知りました。麻生副総理も台湾に行き「戦う覚悟が必要である」と煽り立てる無責任な発言を平然としている姿を見る時、この国の多くの政治家がこのような極右の考えを持っていることに空恐ろしさを感じずにはおれません。知性なき愚かな政治家さん「そんなに戦いたいならあなたが戦場に行ったらどうですか」と私はつぶやきつつ政治への不信と失望感が深まるばかりです。私たちは煽られ騙されてはなりません。米国の戦略にはまって利用されてはなりません。主観的「中国脅威論」から脱して平和と共生の東アジアを共につくっていきましょう。戦う覚悟とは正義感に燃えて勇ましく力を持ち、悪に駆り立てる悪魔の声です。戦争こそが悪であり罪なのです。絶対に悪なる戦争に加担してはなりません。「戦う覚悟」発言には真っ向から抗っていきましょう。命どう宝、武器はいらぬ。

●自衛隊を国際平和災害救援隊へ組み換えよう。

●敵を作らず、他者を殺さない政府を創設しよう。(牛政連)

○抗議行動の現場から

10年に及ぶ長い闘いは、完全非暴力の闘いとして闘いの中で学び進化してきた歴史でもあります。すさ

まじかった言葉の暴力も今は殆どなくなりました。私が敬愛する友人のHさんは（79歳男性）身体の不調を抱え薬を服用する身ながら、ずっと現場に来られています。Hさんは初めから他の人とは違っていました。彼はダンプの運転手さんや警察官の人たちと人として向き合い、「元気か？頑張れよ」と声をかけ平和メッセージのチラシや憲法の条文や毎年慰霊の日の式典の中で読み上げられる子供たちの平和の詩などのチラシを手渡しているのです。Hさんの揺るぎない行動によって、ダンプの運転手さんは心を開き私達を敵視せず、応答して下さる人も現れました。仲間の中には彼の行動をいぶかる人もいましたが、今では彼の行動が非暴力行動の真の意味とあり方を教えてくれています。ダンプの運転手もまた私達と同じ国策の犠牲者であって生活のために働いているのです。最近のニュースで私は初めてダンプ運転手さん達の実状を知り衝撃を受けました。私は国策に協力しているのだから高賃金、特別待遇を受けていると思い込んでいたのですが。「辺野古工事賃上げ交渉、ストも視野」ビックリ!! 彼等の賃金は国交省の労務単価を大幅に下回り、時給 1200 円に止っていたのです。彼等は基本賃金を時給 1650 円、日額 13200 円に引き上げるよう求めて交渉しているのです。結局、国策による辺野古埋め立て工事によって莫大な利益を得ているのは誰なのでしょう。今も闇の中であって工事は進んでいます。そして最も下の現場で働く人々はこのように軽んじられているのです。一日の警備費が 2600 万とも言われる異常な工事は、現場で働く沖縄の人々をそして抗議行動をする私たち市民をものとして見ているのです。辺野古、大浦湾の悠久の海には誰も止められない巨大な台風が居座っているかのようです。何故止められないのか、やがて 50 年、100 年後にすべてが明らかにされるでしょう。かの愛の奇跡を祈りつつ、ダンプの運転手さんが、埋め立て土砂を運ばなくてもよい日が一日も早く訪れますように。その時私たちは手を取り合って「良かったね」と喜び合うことでしょう。

憲法第三章 12 条「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。又、国民は、これを濫用してはならないのであって、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負う」と。自由と権利を主張する私たちにも責任が課せられています。私たちが基地のない平和な「命どう宝」の沖縄を求めることは真に公共の福祉そのものです。国はハンストをして訴えていることに応答しなくてはなりません。無視は許されません。沖縄県民の訴えと向き合って説明し、対話する努力をこそすべきです。寄り添うと言うならまず、この事を実行して下さい。初めの問いに戻りますが、私たちは抗議行動をやめてしまいませんか、雨の日も、灼熱の夏の日も高齢者なる私たちは諦めないで座り込みを続行しますか。心は燃えても肉体は悲鳴を上げています。亡くなられる方、病の方、来られなくなった方もいます。それでも それでも それでも、私たちは諦めないで座り込みを続けるでしょう。それ以外の選択はないのです。明日のことも分らない身であっても、私たち一人ひとは今を人間らしく精一杯生きていくでしょう。皆さんの顔を思い浮かべつつ、月桃通信を全国の友に届けたいと思って一生懸命書いている私がいます。ガンジーの言葉を胸に抱きつつ。

《わたしたち一人ひとりの生き様を生きた教科書にしよう。誰もがそこから学びとることが出来るように。(ガンジー)》

あなたと私と支え合い絆で結ばれている私たち、然し決断するのは一人ひとりです。答を出すのも一人ひとりです。目に見えないものを大切にしていってつなげていきましょう。

「目に見えるものは一時的であり、目に見えないものは永遠に続く」（聖書）

座り込みの現場から

○どんなに魂を注ぎ出して「埋め立てはやめて!!」と叫び続けてもその声は空しく空に消えてゆく。私たちの抗議行動は無意味なのだろうか。巨大な闇の力が私達を飲み込んでいく。国を相手のいくつもの裁判はすべて敗訴し、もはや戦う術を失いつつある。政府は県議選の 2 日後、与党大敗の結果を見てか大浦湾

の埋め立てを8月1日に着手すると発表した。事実上の協議打ち切り通告だ。大浦湾側に生息する約8万4千群体のサンゴ類を非情にも厳しい夏場での移植を5月から始めている。米国の本音は普天間飛行場の継続使用であって、辺野古新基地の完成に数10年かかろうと、完成不可であったとしても困ることはないのである。日本政府だけが、国民の税金を何兆円も費やして工事を続行している。目的は何か、県民への説明は一切ないまま恐ろしい程の破壊が進んでいる。美しかった緑の丘は消え失せ、辺野古の人々が暮してきた故郷は無くなってしまった。いったい水深90メートルもの海を埋め立てる土砂はどこにあるのか。南部の激戦の地は戦争遺跡として保存すべき大切な場所であり、未だ遺骨が残されている。その土砂を辺野古埋め立てに使うことを一体誰が考えたのだろうか。「遺骨を海に投下するのは人間のすることではない」とガマフヤーの具志堅さんと仲間達数人はハンストを決行して訴えている。政治の世界には良心、理性はないのだろうか。私達住民には自己決定権という権利がある。国家権力が住民の意志決定を奪って、国に従わせることは民主主義に反する。

☆県議選過去最低の投票率

衝撃!! 45.26%!! 何故半数以上の住民が投票をしないのか、これは大問題です。その理由を分析した調査結果をまだ見たことがありませんが自分なりに何故なのか考えてみました。政治と日々の生活とが乖離していて自分とのつながりを全く感じられない人々が大勢いるのだと思います。資本主義が生み出した富の一極集中、格差社会の拡大は極貧の人々を多く生み出しました。社会の中でしいたげられ、見捨てられている人々です。その人達は選挙に行くでしょうか。今日一日を生きることに精一杯の人々に選挙や投票を考えるゆとりがあるでしょうか。このような人々が投票する社会を作るためには、政府が底辺にあえぐ人々に光を当て、生きるための手厚い愛のこもった支援をして人々の生活を向上させることです。そのための具体的な方策を実行することです。光が当てられ人々の生活が向上して安定したなら、みんな投票に行くでしょう。見捨てられた人々を大勢生み出しておきながら、高い投票率を求めるのは思いやりのない身勝手な要求です。みんなが幸せになってこそ初めて投票率は上がるのだと思います。投票率は社会を映す鏡です。軍事基地拡大に莫大な税金を使って貧しい人々を踏みにじる沖縄の屈折した社会が変らない限り、選挙は県民の手から離れていくでしょう。投票率の低さは日本政府の問題でもあります。今こそ真剣に日本政府と沖縄の民とは過去最低の45.26%と向き合い、一人一人の命を大切にす平和な沖縄、ユイマール、ちむぐくる、命どう宝の沖縄を求め続けていかななくてはなりません。

追記：40号にて勝連分屯地のことを書きましたが、言葉足らずでしたので追加させていただきます。勝連分屯地は終戦時既に米軍の砲台があり、米軍の基地として広い土地(現在黙認耕作地)を接収していました。いつ頃かそれが自衛隊基地となりました。自衛隊と米軍は一体であり、見えない形で自衛隊基地が強化されています。民家の隣りにある黙認耕作地がこの先軍事基地拡張に伴って悪用されないか不安です。沖縄全土がこうして米軍、自衛隊一体構想の中で新たな戦前を作りつつあることをしっかり見張っていかなくてはなりません。

辺野古基金のために

つながるかうつぐみの会は在庫過多のため、リサイクル着物の受け入れを中止します。

○あみの会 (山田博子:うるま市在住)

リサイクル糸類を提供して下さる方は**必ずご連絡下さい。** 窓口:石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅:098-964-3237 携帯:090-4471-1942

Email: yuuwanoie@gmail.com

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号:12260 番号:12650271 イシハラツヤコ

